

第1回 高崎市総合計画審議会 議事録

区 分	内 容
日 時	平成30年1月16日（火）午後3時20分～午後4時10分
場 所	高崎市役所20階職員研修室
出席者	<p>【委員】《 》は選出区分  《議会》  青柳委員、白石委員、松本（賢）委員、後閑（賢）委員、渡邊委員、時田委員  《関係行政機関及び関係諸団体》  新井委員、有賀委員、石井委員、井上委員、内山委員、大沢委員、大谷委員、木島委員、黒田委員、越澤委員、清水（久）委員、清水（公）委員、末村委員、菅田委員、田口委員、田島委員、塚越委員、戸塚委員、長井委員、蜂須賀委員、町田委員、松橋委員、百瀬委員、矢澤委員  ※竹中委員、田中委員、原委員は都合により欠席  《学識経験者》須藤委員、湊上委員、村山委員  《公募》片山委員、太刀川委員、中澤委員、丸山委員</p> <p>【高崎市】  富岡市長、兵藤副市長、松本副市長、総務部長、総務部次長、財務部長、市民部長、福祉部長、子育て支援担当部長、保健医療部長、環境部長、商工観光部長、農政部長、建設部長、都市整備部長、教育部長、学校教育担当部長、企画調整課長</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱状交付</li> <li>3 市長挨拶</li> <li>4 委員紹介</li> <li>5 会長及び副会長の選出</li> <li>6 議事 （1）総合計画の策定について  （2）第6次総合計画に関する意見交換</li> <li>7 その他</li> <li>8 閉会</li> </ol>
議事内容 (発言内容)	<p>須藤会長  議事の1点目「総合計画の策定について」、まずは事務局よりご説明をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>企画調整課長  はい、企画調整課長の太田です。よろしくお願いいたします。お手元の資料の1、「総合計画の策定について」をご覧くださいと思います。先ほども冒頭、市長のご挨拶でほとんど流れをご説明いただきましたけれども、再確認ということで説明をさせていただきたいと思っております。</p> <p>本日は1月16日ですが、これに先立ちまして昨年12月に①にごございます地域審議会、それから地域振興協議会、各支所地域で毎年行っておるものですが、こちらにおきまして本会の第6次総合計画への意見等がございましたらということでもいろいろと意見をいただいております。それから②、本日第1回の総合計画審議会の設置、本日につきましては自由なご意見をいただくということで開催させていた</p>

	<p>だいております。それから③、第2回の総合計画審議会につきましては、先ほど市長からたたき台ということがございましたけれど、これをお示しさせていただいて再度皆様からご意見をいただくと。だいたい2月中旬くらいに開催できればと考えております。こちらの方で大まかな計画案ができた段階で④のパブリックコメントということで市民の皆様にお示しをいたしましてご意見をいただくということをして3月に予定しております。その後、いただいた意見を踏まえた後に、最後の総合計画審議会を開催いたしまして皆さま方に最終確認をしていただきまして承認をいただきたいという流れで考えておりますのでよろしくお願ひいたします。以上でございます。</p>
須藤会長	<p>ありがとうございました。ただいま総合計画の策定について説明がございましたが、何かご意見等はございますでしょうか。</p>
須藤会長	<p>それでは引き続きまして、2点目の「第6次総合計画に関する意見交換」に入らせていただきます。ここでは、計画の原案作成にあたり、様々な角度から皆さまにご意見を頂戴したいと考えております。皆さまには事前に前回の総合計画や緊急創生プランが配布されていると思います。現在の高崎のまちづくりの考え方、あるいは重点施策などをご覧いただけたかと思ひます。皆さまに関係の深い分野で市に期待することなどをお伺ひできれば、先ほど市長のお話にもありましたように、総合計画に盛り込んでいくという方針でもございますので、ぜひとも皆さまのご意見を賜りたいと思ひます。どうぞ忌憚のないご意見を積極的にご発言いただければありがたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>まだ時間もございますので、いろいろご意見を賜りたいと思ひますが、初めに高崎商科大学の学長の渕上先生、何かご意見ございませんでしょうか。</p>
渕上委員	<p>恐縮でございます。初めて見させていただいて、まだよく目が通せていない中で、申し訳ございませんが、今 ICT 社会ですとか、シェアリングエコノミーですとか、6月には民泊が始まりそういう規制緩和もあるでしょうし、様々なネットワークが充実してくる AI 社会のなかで、大学としましても高崎市や様々な企業、団体等と緊密な連携ができるような客観状況かなと思ひますが、そういった観点から考えること、提言ができればと思ひます。</p>
須藤会長	<p>ありがとうございました。では、同じ立場で高崎経済大学の学長の村山先生、何かご意見お願ひいたします。</p>
村山委員	<p>2点ほど。実は市町村合併の時に委員で入らせていただいた経緯がありまして、そのときに思ひたのが、やっぱり合併をすることで周辺の農山村地域の活性化にどうつなげるかという非常に重要なテーマだったなと思ひていまして、そういう意味では先ほど緊急創生プランを見させていただいて、大変素晴らしい計画でありまして、高崎市の中心部の活性化はすごいなと思ひますが、そういうものがどう周辺地域に波及するかという視点がひとつ重要なかなと思ひていまして。</p> <p>2点目ですけれども、それとも関係するのですが、私、農業政策が専門で見させていただいたら、地産多消という大変素晴らしい、大賛成ですけれども、そういう意味で東京とかで高崎の農産品や加工品を宣伝するのはすごくいいことだと思うのですが、同時に高崎の農村の素晴らしさというか、高崎で農業を担っている方々の素晴らしさというか、そういう地方のよさというよりも高崎の農山村の良さというのをアピールしていただいて、今移住であるとか、定住の若者が農業につくというのが増えていまして、そういう若者達が「おっ、高崎いいな」と思えるような</p>

<p>須藤会長</p>	<p>そういう宣伝の仕方を、情報発信してあげると素晴らしいなと思いますのでよろしくをお願いします。</p> <p>ありがとうございました。先ほどの創生プランの会議のなかで地産地消でなくて、地産多消というお話がございまして、市長を筆頭に高崎農畜産物を東京へ持っていったり、いろんなところに紹介して販路を広げているという活動を市は展開しておられますけれども、同時に村山先生が言われましたように、農村は日本の独特の景観、世界がうらやむような素晴らしい景観を持っておりますし、また、生物の多様性という面からも非常に重要なんですね。そのなかでどんどん人口が減少する。そして一番影響を受けるのが農村じゃないかと、農家じゃないかと。離農者がどんどん加速度的に増えてくるという観点がございましてけれども、また別の観点もあろうかと思えます。突然で申し訳ございませんが、高崎農業協同組合の組合長でいらっしゃいます田口さま、何かご意見ををお願いします。</p>
<p>田口委員</p>	<p>今の関係ということでございまして、農家の方は皆さん本当に頑張っておられます。ただ、所得的に厳しい状況のなかで頑張っておりますので、最終的にはしっかり後継者ができて、農業が継続できるような、それは全国共通の課題でもありますし、高崎だけの問題でもありませんけれども、高崎市という財政的にも素晴らしいこともありますし、施設的にも大きなものを持っている市でもありますので、高崎市だからこそできるような支援の方法をぜひとっていただけるような計画になっていただければと思います。ついででもう1点、高崎市も例えばパソコン等で上空からの写真が見られますけれども、私が住んでいます周辺地域は非常に緑豊かですが、市街地を見るとなかなか緑がないようなかたちになりまして、もてなし広場の北から高崎公園等については大変緑があるんですけども、なかなかニューヨークのセントラルパークというわけにはいかないと思うんですけども、商業、工業がだいぶ盛んになっているなかで、最終的に人間が憩えるような、当然人が住んでいるところに作るということで限られている部分はあると思いますが、施設がどんどんできてきますので、できる限り緑に囲まれた施設を作っていただいて、限られたなかでの対応も難しいと思えますけれども、高崎公園等を少し拡充していただいたり、駅からのシンフォニーロードを緑豊かな形にさせていただくと、商業、工業とともに、さらに緑豊かで住みやすい地域ということでもう少し進めていただくような施策もお願いしたいかなと思っております。以上でございます。</p>
<p>須藤会長</p>	<p>ありがとうございました。今農業は、何と言いますか、例えば高齢者が土に触れたり、あるいは収穫において農作物に触れたり、高齢者の心身の発達や維持改善に非常に効果的だという研究成果も出ておりますし、また、子ども達の人間性の形成の面におきましても農業の果たす役割は非常に大きいというような研究成果もありまして、いろんな意味で農業の果たす役割は非常に大きいと私は思っているんですけども、そういう意味で今後、市におかれましても私どもで恐縮ですが、これは農産物でございますからそんなことも進めてまいろうかなと思っております、いわゆる高齢者施設と農家をどういうふうにマッチングされるかとそういうことも進めてまいりたい。それと同時に先ほども申し上げましたけれども、高崎の農畜産物のブランド化これをなんとか図っていければいいのかなと思っておりますし、そのために市の方に力を貸していただきたいなというふうな気持ちを私は持っています。ありがとうございました。そのほかこれに関連して、何かございましてしょうか。幼稚園・子ども園協会の会長、蜂須賀さん何かありますか。</p>
<p>蜂須賀委員</p>	<p>先般の衆議院選挙の公約の中で言われたとおり、幼児教育は無償化が進みます。</p>

	<p>無償化が進むことによって、多額税金を子育ての方に振り分けていただくこととなります。それに伴って、われわれも責任を持って今まで以上に子ども達のために努めなければならないと思っていますが、いかんせんやはり若い保育士の方が多くいます。なおかつ、子ども達も少子化が進んでおりますので、なかなか自然体験等ができかねることもございますので、会長がおっしゃった田畑田園地帯の環境等、まだ高崎市にもありますので、そんなところも活用させていただきながら、なおかつ都市部の開発されたところもございますので、いろいろな経験を子ども達に積ませていただきながら、心身ともに健やかな子ども達をつくっていきたいと思いますので、ぜひ皆さま方の協力を得て、素晴らしい環境を整備していただければいいのかなと思っています。あとひとつだけお願いしたいのは、保育士不足です。これはいかんともしがたいので多くの皆さまの協力を得ながら、健やかな子ども達を育てるためには、やはりどうしても多くの大人たちの手が必要になります。特に最近、低年齢児の子ども達をみて下さいという保護者の希望が多くありますので、どうしてもそこはマンパワーが必要になります。そのためには保育士さんを高崎市に呼んでいただくなり、育てていくしかないんですが、家庭に入っていらっしゃる保育士の方にももう一度ぜひ現場の方に戻っていただくような政策等、工夫していただければと思っていますので、また多くの皆さまのお知恵をお借りしながら頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。以上です。</p>
<p>須藤会長</p>	<p>ありがとうございました。ご婦人を代表して、高崎地区婦人会連合会の会長でいらっしやいます戸塚様、何かご意見を伺いたいと思いますが、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>戸塚委員</p>	<p>高齢者に対してやさしいコミュニティーづくりをお願いしたいということですが、このあいだ、シルバーさんをお願いしたんですが、俺達でも使ってくれる高崎市になってとっても嬉しいということをおっしゃっていました。ですから高齢者でもまだまだ働ける方はたくさんいらっしやるので、そちらの方をよろしくお願ひしますということと、それからヒルクライム。昨年の暮れに埼玉からヒルクライムに参加しようと思って榛名にしようか、赤城にしようか、という選択をしたんだそうです。でも榛名は起伏がすごくあるんですけれども走っていて楽しい。赤城は平坦で楽ですけどもちょっとつまらないとおっしゃっていたんですね。それで榛名へ行って、結局榛名神社からは歩いて登ったというんですけれども、どんどん県外から皆さんが来てくださるようになったので、とても嬉しく思っております。</p>
<p>須藤会長</p>	<p>ありがとうございます。高齢者の生活のサポートにつきましては、先ほどの緊急創生プランの中でかなりきめ細かく対応されていらっしやるという印象を持っていますが、総合計画の中でこれをどのように取り入れていくかということになりますと、大変難しい問題もあろうかと思っておりますけれども、やはりこれはどうしても避けられない問題だと思っています。市におかれましても、よろしくお願ひしたいと思っております。若い方を代表して、高崎青年会議所の理事長さんでいらっしやいます田島さんよろしくお願ひします。</p>
<p>田島委員</p>	<p>若い世代ということで、私達は40歳までの組織ですけれども、私どもは昨年まで高崎移住計画と題しまして3年間高崎の移住を促進しようという活動をしていたんですけれども、やってみて分かったことは、高崎市ってこんなにいいところだよって東京でいろいろ伝えても比べられてしまうんですね。比べられてしまうと、なかなか決断をしていただけないんですね。移住って何だろうって考えた時に3つあって、小、中、高を高崎で過ごした方が、大学とか何か夢を追って別のところに</p>

出て行ってしまふ方をどうやって戻していくかというところと、大学でたまたま高崎に来た人をどうやって引き止めるかということと、仕事でたまたま高崎に来た人たちがそのまま高崎に住んでしまおうと思っただけのかどうかというところなんですけれども、小、中、高、高崎で育った子ども達も、私もそうなんです、外に出て行ってしまふというのは仕方ないことだと思うんですが、そういう方たちが戻ってくるためには、育ったまちでどういう原体験を小さい時に積んだかというのが非常に大事になってくるんだと思います。そういうことでは、高崎でいろいろ行っているイベントですとか、倉渕の英語村とかっていうのも、子ども達の原体験としては非常にいい思い出になると思うし、おそらくすぐでなくても、5年、10年経った時にやっぱり高崎で暮らしたい、高崎で子育てをしたいって思ってくれる世代が増えるのではないかなと考えています。大学生に関しては、今もまちと大学生でいろいろ一緒になって活動させていただいていますけれども、そういう場で私どもの世代がしっかりと学生達にとって目標となれるような身近な大人であらなければいけないなと思います。高崎ってこんなにかっこいい仕事をしている人がいるんだ、こんな活動している人がいるんだ、って大学生が目標になってもらえるような、人間でいて、何かの節目に大学生もじゃあ高崎で暮らしてもいいかな、働いてもいいかな、東京で働いていてもちょっと挫折した時に高崎面白そうかな、あの人に会いに行こうと思える人でありたいと思います。最後にもう1点、移住とは別の観点ですが、2020年のオリンピックに向けて、高崎市とポーランドが提携されていくなかで、私達の世代としてもポーランドが一時何かしらからんで、オリンピックが終わったら終了というふうにならずに何かポーランドと続けて長くやっていくような仕組みが何かできないかなと思っております。もしかしたらそういうのも子ども達にとって、良い原体験として提供できればいいのかなと考えていますので、そのあたりも何か織り込んでいただけると嬉しいです。私達もしっかりやらせていただきます。

須藤会長

ありがとうございます。大変力強いご意見と、また海外交流ですね。ポーランドとの交流、あるいは他の国との交流をどんどん、どんどん絆を太くしていけるような方策があれば子ども達にとっても意義のある高崎市になるんだということだと思います。もう一人若い人代表で、公募の中澤さんよろしいでしょうか。

中澤委員

まず自己紹介ということで、地元の有志で山祭り実行委員会という委員会をさせていただいています。目的としましては、倉渕町の活性化と子どもたちに非日常体験をなるべくしてもらいたいということで、私達が小さいころ川で遊んだり、野山を駆け巡ったりして遊んだ体験を今の子どもたちはしていなくて、僕なんかもその体験をしてたくらいなので、ここにいる皆さまはもっと素晴らしい体験をしていたと思うんですね。その体験を今の子どもたちにしてもらいたくて、夏に倉渕町のほうで鳥川の源流の水を使った、ウォーターマンフェスティバルという水のお祭りを行っております。その水のお祭りで、普段やっちゃいけないようなこと、本当にいけないことではないですけども、水の上で子供同士が水上チャンバラと言ってたたき合いをしたり、大自然に滑り台を作ってウォータースライダーを試したりとか、そういう非日常体験をするようなイベントをしているんですが、イベントでするのでイベントに来てもらった人はもちろん体験できることなんですけれども、そうではなくて学校の教育活動としてそういうような体験をなるべくできるようにすれば、先ほどのお話ではないんですけども、子どもの頃の楽しかった思い出みたいなものをきっといつか大人になった時に、良い体験したな、高崎市って良いまちだったなと思っただけでももらえるようなそんな町に思えばと思うのでぜひよろしく願います。

<p>須藤会長</p>	<p>ありがとうございました。こういういろんなイベントを考えておられると思いますが、それをどのように発信していくかということが大事というか重要なことだと思うんです。そのためには、ある程度の実績をつくっていく。そして、それをメディアに取り上げてもらうというようなことが一つの方法としてあると思うんですけれども、上毛新聞の内山さんがいらっしゃいますね。何かその点で、あるいは、高崎市の情報発信という観点でお話しがございましたらお願いします。</p>
<p>内山委員</p>	<p>先ほど市長があいさつしたとおりでして、総花的な総合計画だとどこで見出しを取っていいかなかなか分からないんですね。そして、大きな記事にはなりづらいということですね。つまり、総論ではなく各論が大切で、何をしたのか、何をするのか、実際に本当にできるんですかというところが大切になるわけだと思います。第5次総合計画を見ていて、具体的な話でこんなことができたかなということを一つお話しするとすれば、新駅構想というのが先日新聞に出ていましたけれども、高崎経済大学から約1キロくらいのところに信越線の北高崎と八幡のあたりに駅を新しくつくるといいます。高崎経済大学は、駅まで1キロという報道がありましたけれども、何かそういう、具体性ですね。例えばJRの問屋町駅ができてからまちがどういふふうに変ったのか、それを検証してみると、住宅や商業の集積、最近ですとアートなどといったことが生まれてくるというのを考えた場合に、駅というのがこれからの少子高齢化時代を迎えている中で、大きな役割を果たしてくるのではないかなと思います。そのなかでJRの高崎支社長の百瀬さんもおられますけれども、駅が本当にできるんだろうかというのはまた別だけれども、できたことによる経済的なインパクトは非常に大きいのではないかなと思っています。公共交通機関が将来どうなっていくのかということ考えた時に、まちの人口を中心部に集積していく。そのためにどういうことが必要なのかと考えた時に、具体的な事例とすれば本当に10年でできるのかというのは別にして、何かこういう計画を立てるときには本当に新聞では見出しになることですよ。それを何年までにつくる。その結果これだけの人口が増えます、商業集積がこれだけありますということを示されたら、それは大きな記事になるんじゃないでしょうか。ということが皆さんの意見を聞いていて考えた次第であります。</p>
<p>須藤会長</p>	<p>ありがとうございました。大きなサジェッション（提案・提言）あるいはヒントと申しますか、メディアからご意見を賜りました。そろそろ時間も迫ってまいりましたが、何か発言されていない委員の方でご意見ございませんでしょうか。はい、田口委員どうぞ。</p>
<p>田口委員</p>	<p>計画を事前にいただきまして、見させていただきまされたけれども、具体的なことはまた別に計画があるということで、調べさせていただきましたが、たとえば先ほど公園とか緑が欲しいというお話をさせていただいたんですが、高崎市緑の基本計画というのこの下の計画でできていまして、そのなかで緑の現状とか課題とかということで分析されているんですけれども、当初の計画については、ほとんどの表現が「求められます」とか「必要があります」という表現になっておりまして、これでは計画ではなくて願望ではないかというふうに思いました。ぜひ、「求められます」とか「必要があります」ということではなく、こういうかたちを具体的に進めていきますというかたちの計画づくりが必要だと考えておりますのでよろしくお願いたします</p>
<p>須藤会長</p>	<p>ありがとうございました。そのほか何かございませんでしょうか。よろしいでし</p>

	<p>ようか。それではこの辺で皆さまからのご意見を承ることを終わりにしたいと思 います。本日の議事につきましては、これで全て終了とさせていただきます。</p> <p>皆さまには突然指名してしまいまして申し訳ございませんでした。また、適切 にお答えいただきましてありがとうございました。感謝申し上げます。進行を司会に 戻しますのでよろしく申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--